

# ク ジ ラ 眠 ら る

今回は、PDFとともに、動画も一緒にアップしたので、是非ごらんください。

 [ムービーリンクへジャンプ](http://www.web-lue.com/movie/categorise/tonga/index.php)  
<http://www.web-lue.com/movie/categorise/tonga/index.php>

Photo & Text = [Takaji Ochi](http://www.takaji-ochi.com)  
[www.web-lue.com](http://www.web-lue.com)

## トンガ・ババウ諸島

Web-lue 2006. Winter

南半球の島国トンガ王国には、7月から10月にかけて南極圏から北上してきた数百頭のザトウクジラたちが姿を見せる。その目的は、出産、子育て、そして交尾。トンガでは水面や、水中で繰り広げられる彼らの様々なドラマを、垣間見ることができる。

正面から静かにアプローチする僕を停止して見守る親子。撮影しながら、つい笑ってしまった

 [Information Link](http://takaji-ochi.com)  [情報HPへジャンプ](http://takaji-ochi.com)  
<http://takaji-ochi.com>

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

# ク 眠 る ジ ラ



親子クジラが目を閉じて眠っている  
母親の口元は触れる距離にある

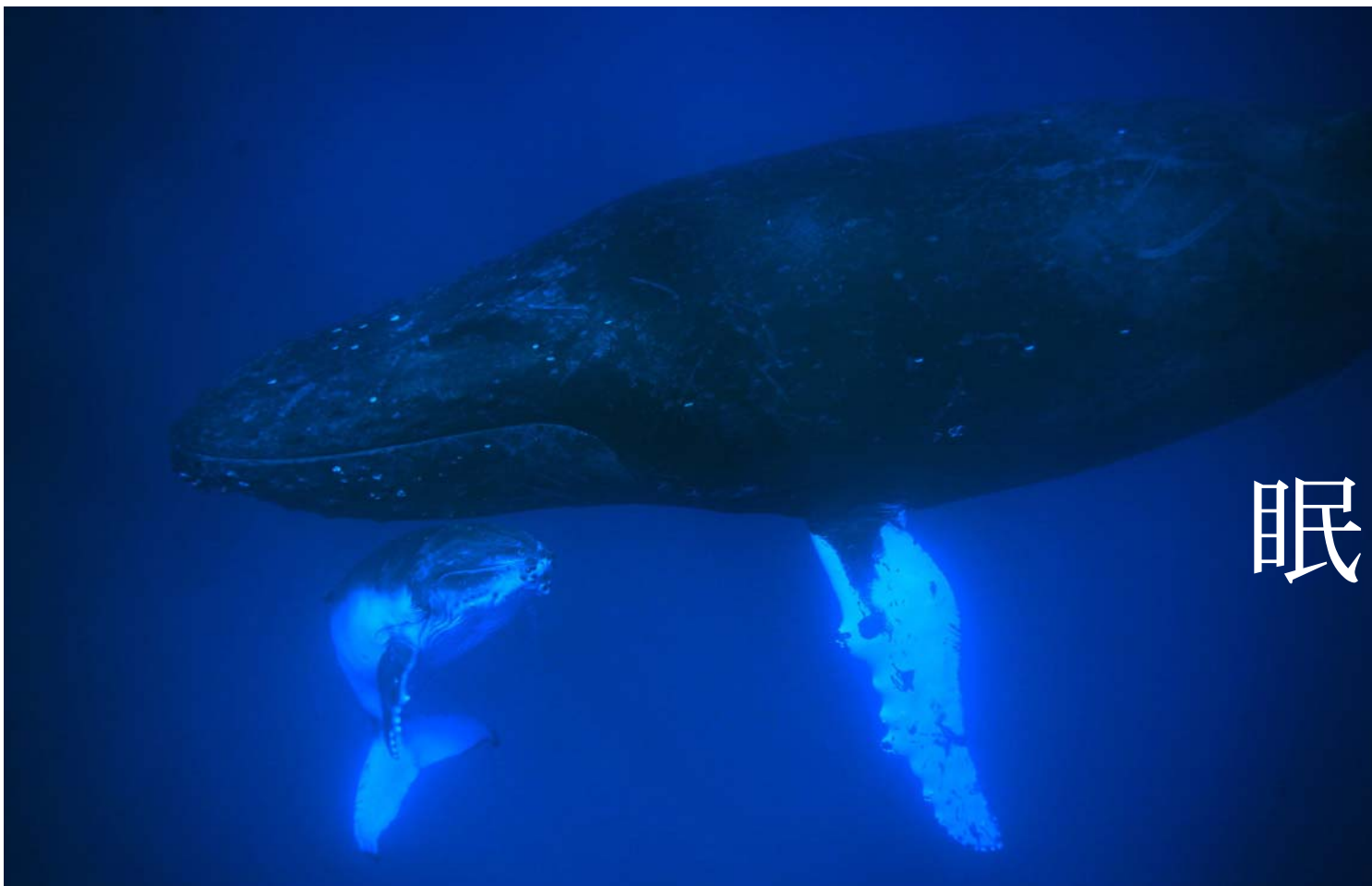
眠るクジラ～トンガ・ババウ諸島

[www.web-lue.com](http://www.web-lue.com)

Web-lue 2006. Winter

 Information Link <http://takaji-ochi.com> click! 情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



# 眠るクジラ

島影にクジラの親子が眠っている。よく目を凝らして探しても、最初は潮が引いてリーフの一部が水面に姿を現しているようにしか見えない。目印となるブローも上げず、親子して水面でじっとしている。ボートでかなり接近して初めてそれが親子の背中だとわかる。「まじで、こんな島の近くで休んでるんだ」そう声に出して驚かすにはいられないほど近い。島からの距離わずか100m弱。島から泳いで行ったとしても、十分にクジラを見れてしまいそうだ。

ゆっくりとボートを近づける。距離50m、まだクジラたちは微動だにしない。ボートキャプテンが「よし、静かに海に入って、ゆっくり近づいていけ、いいか、ゆっくりだぞ」と僕らにエントリーを促す。ボートの脇から、全員が静かに海の中へ。先頭に行くガイド役の僕は、クジラに背を向け、皆が海に入るのを確認し、全員が揃ったところで、同じペースでゆっくりとクジラたちに向かって泳ぎだす。クジラの方を振り返り、背中を確認するために海中に顔をつける。どんどんと海中でのクジラの輪郭がはっきりしてきた。

巨大さは、何度も経験していたが、毎回逃げだされないように静かに接近するのに緊張する。このときは、そうした心配をよそに、クジラの親子は僕らの接近をまるで意に介さないように同じ場所に浮かんでいた。顔の表情もはっきり読み取れる距離まで来た。母も子も目を閉じている。大抵は接近すると、巨大で印象的な眼差しで、じっと見つめられるため、さらに緊張が走るのだが、この親子はどうやら完全に眠っているようだった。



01:母親は海中で眠り、息の短い子クジラは、合間合間に浮上してくる。浮上のタイミングを見計らって、水面を見上げる子クジラ  
02:20人乗りのホエールソング。上陸用舟艇のように前が開いて、エントリーする。この船をチャーターして8人で利用する  
03:4人乗船に利用している、スパイホップツアー。スピードも早い



眠るクジラ～トンガ・ババウ諸島

www.web-lue.com

Web-lue 2006. Winter

 Information Link <http://takaji-ochi.com>  情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます

# 驚愕のクジラ王国

僕はさらに大胆に接近する。ゲストは恐る恐る僕からも距離を取り始める。母親の口先がもう触れるくらいの距離。これが凶暴な動物であったなら、きっとあっという間に一飲みされているだろう。否、凶暴で無いにしても、これだけ巨大だと、いつ押しつぶされてもおかしくない。そんな距離だ。僕はまるで恐竜映画でも撮影しているかのような気分になった。しかし、カメラマンというものは、カメラのファインダーを覗いていると、常軌を逸したかのように大胆になる。静かに水面に浮遊しながらシャッターを切り続ける。

最初は正面から、そして母親側の側面に回りこみ、斜め横前方から……、母クジラは、まだ目を開かない。すでに僕の身体は母親の胸臑の中にある。彼女が動けば間違いなくぶつかってしまいそうだ。

何かの拍子に、母親が目を開き、僕と目が合った。その瞬間、彼女は巨体を水中に沈め、子供とともに移動を始めた。僕は一瞬怯んだが、すでにどうすることもできない。後はシャッターを切り続けるだけだった。足を3mもある巨大なムナビレが通過していく。ジェット機の主翼のような惚れ惚れする形をしてい

る。「カッコいい……」僕は恐怖心も忘れて、泳ぎ去る親子を眺めていた。尾びれが僕の目の前に現れて、身体全身がぶわっと水流に包み込まれて我に返った。

ここは、南半球のトンガ王国、ババウ諸島。毎年7月から10月にかけて、主に南極海方面からのザトウクジラたちが集まってきて、出産、子育て、交尾などを行っている。上記したようなクジラとの超接近遭遇が常というわけではないが、それに近い状況には、かなりの確率で遭遇するチャンスがある。

今まで多くの海でザトウクジラの撮影を行ってきたが、これほど個体数が多く、島影に守られたエリアの多い海域で、警戒心の薄いザトウクジラたち、特に親子クジラのいる海はなかなか見つからないのではと思う。僕は、3年ほど前から、友人のカメラマン、トニー・ウーとともにこの海でのクジラの撮影を続けている。

初めて訪れた年、3週間ほどで撮影したクジラの写真だけで「10年以上撮影して撮り貯めたくらいのシーンがある」と多くの人から言われた。それくらいトンガのクジラは凄いのだ。



母クジラがテールで激しく水面をたたき、テールスラッシュと呼ばれる行動には様々な説がある。



警戒心の薄れた子クジラが、目の前で優雅にダンスを披露してくれた。

眠るクジラ～トンガ・ババウ諸島

www.web-lue.com

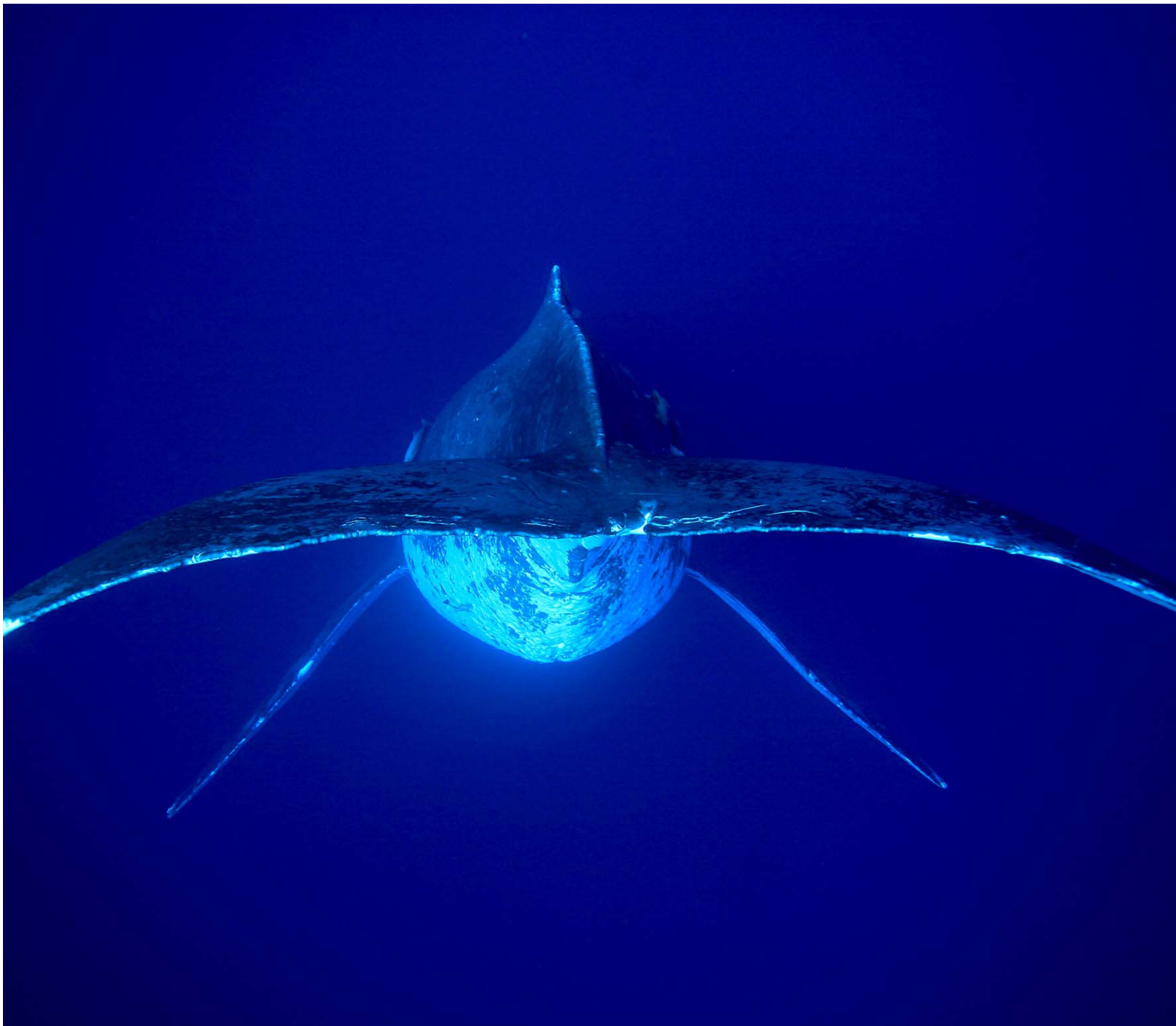
Web-lue 2006. Winter



Information Link  
http://takaji-ochi.com

click! 情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます



水深20mほどに、テールを上にしてじっと動かずに歌を歌い続けるシングルのオスクジラ

## トンガで撮影可能な ザトウクジラの 生態と撮影難易度 (10段階)

数年間ババウでクジラスイムを行ってきて、様々な生態シーンを目撃、撮影することができた。ここでは目撃可能な生態について解説するとともに、独自の経験からその撮影難易度を表記してみた。点数が高い程難易度が高い。他の海に比べて、いかに親子の撮影頻度が高いかがわかるだろう。

### [海中編]



シンガー (難易度8)

海中でメスを呼ぶために、ザトウクジラ独特の鳴き声を発しているシングルのオス。海面に垂直に、テールを上、頭を下にして海中に停止して歌を歌っている。ほとんどの場合、深いので海面からは見ることができないが、その真上で聞く泣き声には感動する。稀に目視できる浅さで停止して歌っていることがあるので、素もぐりで撮影することが可能だが、かなり稀。

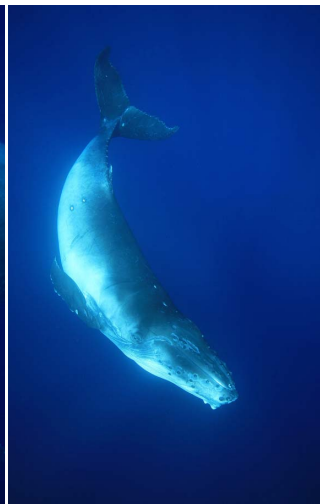


シングル (難易度6)

単独で行動している大人のクジラ。オスメス関係無く、ほとんどの場合接近する前にフルークアップして海中深く姿を消してしまうことが多い。稀に好奇心旺盛な個体が、船やダイバーに興味を示して長時間一緒に泳いでくれることがある。



深海から浮上してきた、シングルクジラ



目の前で、こちらを気にしながら遊ぶ子クジラ



浅瀬で休息していた親子



おそらく、交尾前に水面で休息していたペアのクジラ



### 親子 (難易度3)

他の海では難しそうだが、実はババウでは、一番撮影が簡単なのが親子の水中写真。穏やかな島影などに留まってじっとしていることが多いので、神経質でない親子を見つければ、一日中撮影していることも可能だ。親子を見つけれられるかどうかにかかってはいるが、自分の経験からするとババウでのクジラの水中撮影の8割近くが親子の写真。



### 親子とエスコート (難易度5)

親子に付き添うオスのクジラのことをエスコートという。次の交尾のチャンスを狙っているといわれているのだが、個体によって性格も様々。親子に接近しようとする間に割って入ってくる個体もいれば、まったく気にしない個体もある。できれば3頭一緒に綺麗に撮影したいのだが、透明度の良い外洋でなら十分撮影が可能だ。しかしほとんどの場合、邪魔になることが多い。



### 子クジラ (難易度4)

停止して休んでいる親子の中には、海面でなく、浅い海中で母親が停止していることも多い。この場合、息の短い子クジラだけが水面に浮上してきて泳いでいる。これに静かに接近するのだが、強引なアプローチをしなければ好奇心旺盛な子クジラが向こうから近づいてきてくれることも多い。海面に浮遊して、向こうからの接近を待つのがベスト。回数を重ねる事に安心して慣れてくるので、とにかく辛抱して無理なアプローチをしないことだ。撮影がしたくて無理矢理接近すると、下で寝ている母親が急浮上してくることもあるので注意が必要。



### 出産 (難易度10)

今までに何度か妊娠中であまりすぐ子供が生まれそうなメスに遭遇したことがある。夜、浅いリーフで出産を行うと聞いたことがあるが、撮影は困難だと思う。できれば撮影してみたいけど。



### フィーディング (難易度8)

子クジラの授乳シーン。水面で休息中に授乳している場合は、ボートキャプテンの判断で水中に入らずにボート上で授乳が終わるまで待機する場合もある。また親子で移動中に子クジラが授乳しているシーンを狙撃することもたまにある。しかし、撮影はいまだにちゃんと成功してはいない。



### ペア (難易度7)

交尾前のオス、メスやオスのペアなどを狙撃することが多い。海面では見つけやすいが、シングル同様ほとんどの場合、接近前に潜ってしまうことが多い。稀に接近してもしばらく水面でぼ～っとしていることもある。また、船やダイバーに興味を示してくれる個体も稀にいるので、そのようなペアに会えれば超ラッキーだ。



### 交尾 (難易度10)

ザトウクジラの交尾は水深のある海中で行うそうなので、スキューバダイビングでの観察はほぼ不可能ではないと思われる。一度も目撃したことは無い。現地の経験のあるボートキャプテンの話では、海中で交尾直後にブリーチングすることが多いそう。



### ヒートラン (難易度5)

一頭のメスを巡って数頭のオスがそのメスを激しく追いかけるシーン。追いかけることに夢中になっているので、タイミングを見計らってエントリーすれば、撮影のチャンスは高い。しかし、かなり激しく移動していたりするので、注意が必要だ。

トンガで撮影可能なザトウクジラの生態と撮影難易度 [海中編]




### ペクトラルスラップ (難易度2)

海面でリラックスしているときや、あるいは接近するボートを威嚇するように胸鰭を空中に出して海面を叩く動作を行うことがある。



### テールスラップ (難易度3)

これも威嚇で行う場合などがある。何度も何度も激しく連続して行うことがあるが、とにかく圧巻だ。



### フルークアップ (難易度2)

海中に潜るときに、綺麗にテールをアップして深く潜行する。船の近くでやってくれれば綺麗な撮影ができる。



### スパイホップ (難易度4)

船の動きなどに興味を示して、海面に垂直に顔を出す。あまり多くは目撃できないが、好奇心旺盛なクジラの場合、かなり近くでスパイホップをしてくれることがある。



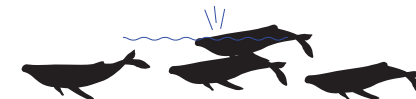
### ブロー (難易度1)

クジラを探す一番の目印になるのがブローだ。船で接近してからも移動中のクジラのブローを撮影するのは簡単。太陽の角度によっては、ブローによって虹がかかるので、それを狙って撮影するのもいいかもしれない。



### ブリーチング (難易度・子クジラは2。大人は6)

子供は、一度ブリーチングをはじめると、何度も激しく繰り返すことが多い。多いときには30~40回も連続してブリーチングしたのを目撃したこともある。親や大人のブリーチングは突然だったり、回数も1回やせいぜい数回だけなので、撮影は難しい。親子の場合、子供がブリーチングを始めた直後に母親やエスコートがブリーチングすることが多いようだ。



### ヒートラン (難易度2)

今年はほとんど見ることがなかったが、昨年、一昨年はこのヒートランを多く目撃した。行動の仕方にもよるが、海面をプフォブフォと音を立てて激しく移動していることも多いので、見つければ撮影は簡単。



- 01.島の目の前でブリーチングして見せてくれた、エスコートのオスクジラ
- 02.ブローは、クジラを探す最初の目印にもなる
- 03.深く潜行する直前に見せるテールが美しい
- 04.水面でくつろぎながら、優雅に長いヒレで水面をたくたく行為は、なんだか手を振ってるみたいに見える
- 05.スパイホップは、周囲の様子を伺ように、水面に垂直に顔を上げる

## トンガで撮影可能な ザトウクジラの生態と 撮影難易度 [海面編]

# インフォメーション

## Information

**シーズナリティー** 南半球にあるトンガでは、ザトウクジラたちが、出産、子育てに姿を見せる時期が日本とは間逆になる。7月中旬頃から姿を見せ始め、10月頃まではこの海域で出産、子育てなどを行っている。

**アクセス** 日本からは、ニュージーランド航空でオークランドを経由してトンガの首都トンガタプへ。そこから国内線でババウ諸島へ約1時間30分。国内線で利用されているのは、年代もののDC8。エアパシフィックでフィジー経由というものもあるが、週に1便しか飛んでいない。

**ホエールウォッチング事情** 政府からホエールウォッチングの許可を受けたサービスだけが、船でクジラにアプローチすることを認められている。ここ最近、許可申請するサービスの数が増えてしまい、ボートの数が増えることが懸念されていて、現地のサービス同士で話し合いを行い、毎年ルールの改正などが行われている。

**ルール** 上記したように、毎年ルールが変わる。はっきりしていることは、親子のクジラの場合、水中に潜らずに水面からだけのアプローチが認められている。大人だけの場合、キャプテンの判断で水中に潜って(スキューバダイビング)のアプローチも認められる。

アプローチのさせかたは、サービスによって多少ことなるようだが、ルールとしては、一度に入水できるのは、ガイド1名とゲスト4名のみ、交替で入ることができる。クジラに対して、ついでよい船の数は2隻まで。しかも優先権のある一隻が泳いでいる間は、もう一隻は極力距離をおいておかなければいけない。一隻のボートがクジラについてよい時間は、今シーズンも検討課題になっていたが、午前中は最初に見つけた船がキープし続けてよいが、午後からは時間30分たったら、次の船に譲らなければいけない。もし、次の船が一度だけ入水させて欲しいという要望があった場合、優先権のある船が認めれば、一度だけ入水させてもらえるが、その後はまた優先権のある船に権利を返して、さらに待っている船に順番を譲り、別のクジラを探さなければいけないなど、複雑になってきている。

**宿泊&食事など** ババウ島の中心地ネイアフには、バックパッカーや数件のホテルがある。高級リゾートは存在しない。レストランは、イタリアン、チャイニーズなど数件あるが、日曜日にはしまってしまうレストランも多い。島内には、インターネットカフェもあり、ワイヤレスランも使用可能。

**電圧** 240V。コンセントの形状はオーストラリア、ニュージーランドと同じハの字型。

**通貨** パンガ、1パンガ(TOP)=約58円

**チップ** チップの習慣は基本的にない

**水** ミネラルウォーターを



### Trip Infomation

INTO THE BLUEでは、天候も安定していて、一番クジラとの遭遇条件がよいといわれる8月の1ヶ月間、現地での船を数隻チャーターして、ホエールスイミングを行っている。現地オペレーションは、ホエールウォッチングの老舗でもあるセーリングサファリ。経験豊富なキャプテンがそろう、クジラとの遭遇率も高い。詳しい内容、お問い合わせは

<http://takaji-ochi.com>  
ochi@web-lue.comまでどうぞ



01.ババウの中心地、ネイアフの町。細長い建物が、毎年僕たちが利用しているパラダイスホテル 02.急斜面の産が多いババウでは、島影に隠れる場所が多く、風の影響を受けにくい  
03.トンガタプからババウへは、第二次世界大戦時代の飛行機DC8で海を渡る 04.地元の子供たちは皆無邪気な笑顔を見せてくれる  
05.島内のアトラクションとして、バギーで島を巡るツアーがある。風が強くて海に出れないときにおすすめだ。  
06.バギーで、眺めの良い山頂まで向う。そこからクジラが見れることもある

眠るクジラ～トンガ・ババウ諸島

[www.web-lue.com](http://www.web-lue.com)

Web-lue 2006. Winter

Information Link <http://takaji-ochi.com> 情報HPへジャンプ

©WEB-LUE ウェブマガジンの二次配付および画像・文章の複製、二次使用を禁じます